

小ギクの電照栽培には 親株管理時にも電照処理をしていることが望ましい

福島県農業総合センター浜地域農業再生研究センター

事業名 福島県営農再開支援事業

小事業名 営農再開に向けた作付・飼養実証

研究課題名 小ギクの品種適応性の実証(葛尾村)

担当者名 安田貴則、根本知明、江川孝二

I 実証技術の解説

1 要旨

小ギクの電照栽培を行う場合、親株を無電照で管理すると開花抑制効果が低下することがあるため、親株の栽培時から電照処理を行うことが適切な開花調整を行う上で望ましい。

- (1) 電照せずに親株管理をした小ギクの穂木を用いた電照栽培では、電照下で親株管理をした場合と比較して、「精ちぐさ」が1週間程度早く開花した(表1、図1)。

2 期待される効果

- (1) 小ギクの電照栽培を行う際の親株管理及び穂木購入の参考となる。

3 活用上の留意点

- (1) 本試験は、平成30年度に葛尾村(標高490m)で実施した。
- (2) 今年度購入した穂木を使用し、挿し穂は3月26日、定植は5月1日に実施した。
- (3) 電照栽培は、白熱灯(みのり電球75W)を22~4時に点灯し、挿し穂~消灯日まで実施した。

II 具体的データ等

表1 親株電照の有無による小ギク「精ちぐさ」の電照栽培における開花時期の違い

親株電照	消灯日 (月/日)	採花始期 (月/日)	採花盛期 (月/日)	採花終期 (月/日)	到花日数 (日数)
無(季咲穂)	6月19日	7月21日	7月23日	7月26日	34
有(電照穂)	6月19日	7月28日	7月30日	7月31日	41

※採花始期:調査茎の10%、盛期:50%、終期:90%を収穫した日。

※到花日数は、消灯日から採花盛期までの日数。



図1 小ギク「精ちぐさ」の親株電照の有無による生育の違い(撮影日:7月23日)

※撮影時は、親株電照無が採花盛期(50%が収穫日)であった。

III その他

1 執筆者

安田貴則

2 実施期間

平成30年度

3 主な参考文献・資料

(1)「需要期安定出荷のための夏秋小ギク電照栽培」(地域再生花き生産コンソーシアム)

(2)平成29年度営農再開実証技術情報「阿武隈地域で8月旧盆需要期に採花可能な小ギク品種(飯館村)」(福島県農業総合センター浜地域農業再生研究センター)